

わかすぎの里の小さな種

厳木高等学校長 坂本 康晴

一年前、地元厳木を元気にしたいと まちづくり団体さんが作った厳木駅周辺の「街歩きマップ」記事をきっかけに「きゅうらぎデザイン」さんとつながることができました。以来、毎月地元の方々と一緒に実施しておられる厳木駅清掃活動（草むしり）に本校生徒たちとも一緒に何度か参加しています。学校の取り組みとして厳木駅清掃活動を朝の挨拶運動と兼ねて行っていますが、空き缶や紙くず等のゴミ拾い活動が主です。地元の皆さんと一緒に草をむしりながら、地元の皆さんがどれほど厳木高校に注目し、気にかけて、応援していただいているかを肌で感じ、大変ありがたい気持ちになりました。

その後、きゅうらぎデザイン代表の竹花さんが、東京から厳木町にやってきた横道さんという厳木市民センター集落支援員さんを連れてきてくれました。彼が発行している「きゅうらぎ未来新聞」は彩り豊かな地元のニュースとともに毎月厳木町内のすべてのご家庭に届けられています。その中で、厳木高校生の活躍などを紹介してもらったり、厳木高校の部活動紹介記事等様々な企画を立ち上げてもらったりしています。

今度は、その横道さんが、長崎市内の大学生が立ち上げた若者支援や地域活性化を目的とする団体さん、PAL-FLAGsのメンバーを厳木高校に引き合わせてくれました。彼らの中には、教育学部の学生さん、高校まで不登校経験があり高卒認定試験を経て苦労して大学に入学した学生さん、もちろん佐賀県（致遠館高校）出身の学生さんもいます。元々、彼らは長崎市が若者流出率全国一位というニュースに危機感を感じ、現状を改善したいという強い思いから活動を始めたそうです。彼らはすでに長崎市や複数の一般企業からの支援（スポンサー契約等）を受け、長崎市内に高校生の居場所「Build Space」という空間を立ち上げ活動を展開しています。その彼らが、今度は「Build Space in Kyuragi」を立ち上げ、厳木高校生が！厳木町を元気（げんき＝厳木）に！する活動を、地元の人たちを巻き込んで、始めてくれました。

8月の厳木駅夏まつりでは、本校の食物研究部の生徒たちが地元のパン屋さん「アンクルジャム」さんと共同で開発した「すぎの子パン」が販売され、大盛況であつという間に用意したパンが完売しました。その時に購入された地元の皆さんから是非、通常販売をして欲しいという温かなお言葉が寄せられていると聞いています。今回のコラボレーションをきっかけに、10月から週に2度、昼休みに校内販売をしていただくようになりました。毎回、生徒たちが長蛇の列を作って購入させてもらうほど、楽しみにしています。

令和4年2月に、本校の生徒たちが山口知事とともに校内に植樹したサガンスギのように、今年度はまた新しい種がこのわかすぎの里に舞い落ちました。これから長い時間をかけて少しずつですが大きくたくましく成長し、あおあおと葉を茂らせ、多くの美しい花々を咲かせ、どこか新しい土地で新しい種を落とし、活動の生命をつないでくれる。厳木高校生と、地元厳木町のみなさんと、そして長崎の大学生団体さんとが、ずっとずっとそんな関係が続けられることを心から願っています。